

NPO 法人みんなのプロジェクト季刊誌

No.20  
2024年夏号

# はたけだより

ひととひとがつながり、思いやりをはぐくむ共助社会づくり

はたけの家  
から

とっておきの1枚



20号  
目次

column

出会う・つながる・学び合う

support

みんなでプロジェクト

Photo

日常の風景

event

report/information





# column 出会う つながる 学び合う



## 共有地 (Common) が必要です

水野 英尚

北九州市で30年以上に渡り、「ホームレス支援」(生活困窮者支援)を続けてきた奥田知志さんが、「ハウス」と「ホーム」の違いについてこう語ります。

「今から30年前、中学生によるホームレスの襲撃事件が起きました。その被害者である親父さんが語られた言葉が忘れられません。『一日も早くやめてほしい。でも考えてみたら夜中にホームレスを襲いに来る中学生は、家があっても帰る場所がない。家族はいても誰も心配して探してくれない。帰るところがない、心配してくれる人がいない。そういう人の気持ちは、俺はホームレスやから、分かるけどなあ。』中学生は家があるから『ハウスレス』ではない。しかし、帰る場所がなければ『ホームレス』。くかつて路上の片隅で見られたこの風景が、今や日本中に広がったように思います。『ユダヤ帰れくコロナ時代に聖書を読む』より)

核家族、単身世帯、シングルマザー、子どもの貧困…、時代の中で「つながりの希薄化」を表現する言葉は常に加え続けています。

私たちは「豊かさ」を求めて、それが歩んできたと言えます。

しかし、どこかで「何かが違う?」、「このままでいいの?」そんな気持ちを抱きながらも、目の前のことに手一杯になり懸命に歩み続けてきたと言えます。

時には、「強いリーダー」を求めて、課題は解決に向かっていくのだと信じて歩んできたのではないのでしょうか。今の日本経済の停滞期を示す言葉に「失われた30年」と言われますが、景気の長期低迷だけを示しているようには思えません。そこには別の「失われた」ものがあると思うのです。つまり、自らが多くを持つことが評価対象とされる資本主義社会では、確かに得たものもありますが、「失う」ものも多くあったのではないのでしょうか。「自己責任」として人生の浮き沈みの責任を転嫁する社会のあり方では、もはや、誰もが望む暮らしを継続し、尊厳や命を守り続ける社会を実現することは困難であることは明らかです。

では、弱くて力のない私たちに何ができると言うのでしょうか。たとえ声をあげても、大海の一滴のようなものでしかなく、政治や社会が変わるなどはとても思えません。しかし、それでも私たちはこの社会の

中で、その一員として暮らしています。年代、性別、病気や障がいの有無、一人ひとりが日々の暮らしを、個々の自分の暮らしを営んでいきます。

そうした自分の暮らしの角度を、少し変えることはできません。これまで、自分(家族)にだけ向かってきたベクトルを、外側(他者)に向けてみるのです。すると、次第に互いのベクトルが集まる場所が形作られるようになる。

やがて、互いに分かち合いのできる「共有地」(Common)となっていく。それが暮らしに必要な不可欠な場所となる。国が、行政がと声高に叫ばなくても、小さな私にできること、どんな人にだってできること、その人でなければできないこと、いや、何もしなくてそこに「居る」ということ、その一人ひとりの「居る」が集まった、「共有地」(Common)がこの時代に必要なのだと思います。





## 【報告】第1回地域で暮らし続ける学習会

7月25日（木）13時より「第1回地域で暮らし続ける学習会～ともに育てるすまい方～ Commomという選択～」を開催しました。対面とオンラインで開催し、30名弱の参加がありました。オンラインでは、岩手県や福井県からの参加もありました。

最初に、みんなのプロジェクト水野より「ともに育てるすまい方～ Commomという選択～」と題して、話題提供しました。参加者からは「シェアハウスのような自立生活を夢見ているが、何から準備していいのか」「シェアハウスに踏み切ったきっかけは」「支援者をどうやって集めているのか」といった質問がありました。

参加者からは、「とても分かりやすかったです」「シェアハウスがいいなとずっと思っていました。地域で実現させていくために一から学ぶ機会になりました」といったコメントをいただきました。ご参加のみなさん、ありがとうございました。



### 「自由空間こもん」

「ヘルパーさんと外出した時、ゆっくりとくつろげる空間があったら・・・」  
「吸引等の医療的ケアがあっても、気兼ねなく参加できる教室があったなら・・・」そんな「フリー」な空間を提供したいと考えています。

### 「福祉運送みちくさ」

「車イスやバギーでバスや地下鉄等の公共交通機関は、利用しづらい..」  
「タクシーでは料金的にキツイ..」  
そんな外出での課題解決に、福祉有償運送をはじめます。

お問い合わせ先：Tel 092-874-3051（水野）

みんなで  
Minnade  
プロジェクト  
Project

サポーター会員  
募集中!!



【振込み先】  
ゆうちょ銀行 店名：七四八  
記号：17440  
口座番号：89850401  
口座名義：トクヒ) ミンナプロジェクト

ご寄付をいただきました！

堀川久美様	小材純子様
内藤千恵子様	和田淳様
小川達也様	奥田篤行様
伊原幹治様	浅川信子様
中尾えがお様	安宅正美様
木下康子様	船越厚子様



# Information

event

各イベントやニュースなど情報をお届けします。

第2回 地域で暮らし続ける学習会(3回連続)

## ともに育てるすまい方 -Commom という選択-

2024年9月19日(木)  
13:00~15:00

対面 こもん(福岡市早良区梅林6-23-3)

オンライン ZOOM

定員 対面:10名 オンライン:30名

主催 NPO法人みんなのプロジェクト



参加無料



▲お申し込みは、  
こちらから  
(公式サイト)

NPO法人みんなのプロジェクトでは、「医療的ケアの必要な重い障がいのあるひとが地域で暮らす」をテーマに3回連続の学習会を企画しています。第2回の今回は、「Commom(こもん)」という取り組みについて話題提供を予定しています。ぜひご参加ください。

## 日常の風景

Photo



NPO法人みんなのプロジェクト季刊誌

# はたけだより

No.20  
2024年夏号

ひととひとがつながり、思いやりをはぐくむ共助社会づくり



発行日 2024年8月 日 発行元 NPO法人みんなのプロジェクト

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3 TEL:092-874-3051 FAX:092-874-3052

公式サイト <https://minnanoproject.org/> メール: [hatakenoie2020@gmail.com](mailto:hatakenoie2020@gmail.com)